

# 経営学部基礎科目

経営学部学部基礎科目一覧

科目コード	2011年度入学生	
40001	キリスト教社会倫理	
40002	キリスト教福祉	
40003	差別と国際社会	
40004	労働と人権	
40005	ジェンダーの現在	
40006	現代社会と政治	
40007	現代社会と表象文化	
40008	コミュニケーションと言語学	
40009	人生と儀礼	
40010	心の健康	
40011	生命倫理	
40012	自然と環境	
40013	環境と社会	
40014	情報社会とメディア	
40015	ミクロ経済学入門	
40016	マクロ経済学入門	
40017	法学	
40018	社会学	
40019	歴史学	
40020	哲学と思想	
40021	人間と文学	
40022	人間と言語	
40023	人間と宗教	
40024	美と芸術の歴史	
40025	科学の歴史	
40026	科学の哲学	
40027	自然科学の基礎	
40028	統計学の基礎	

## 40001 キリスト教社会倫理

(Christian Social Ethics)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 掛川 富康

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

キリスト教思想は、社会のあり方について一定の理解と認識を持っている。社会のあり方については、歴史上さまざまな考え方（ギリシャ・ローマのポリスの思想、権力を中心にした近代の政治思想、市民革命以降のデモクラシー等々）があるが、これらの考え方の理解を深めながら、これらの考え方との対比において、キリスト教の社会倫理の視点から考えることができるようにしたい。キリスト教社会倫理の考え方は、聖書（旧約聖書・新約聖書）やキリスト教思想をもとに学ぶ。近年の人間と社会が遭遇している諸問題（人権の思想、環境の問題等々）についても、現代のキリスト教思想がどのように応答しているかを学ぶ。

授業計画

- 第1回 一般的な社会倫理とキリスト教社会倫理
- 第2回 社会倫理の歴史（1）—古代ギリシャ・ローマの社会倫理
- 第3回 社会倫理の歴史（2）—中世の社会と倫理
- 第4回 社会倫理の歴史（3）—ルネサンス以降・近代の社会と倫理
- 第5回 旧約聖書と社会倫理（1）—家族・部族共同体と倫理
- 第6回 旧約聖書と社会倫理（2）—国家共同体と倫理
- 第7回 旧約聖書と社会倫理（3）—預言者と倫理
- 第8回 新約聖書と社会倫理（1）—弟子集団と社会
- 第9回 新約聖書と社会倫理（2）—イエスの教えと社会の対立
- 第10回 新約聖書と社会倫理（3）—イエスの教えに基づく共同体・社会
- 第11回 近代社会の特質（1）—自由と権力と倫理
- 第12回 近代社会の特質（2）—人権・フェミニズムの思想
- 第13回 近代社会とキリスト教（1）—ヒューマニズム・人権の思想との関連で
- 第14回 近代社会とキリスト教（2）—自然・環境との関連で
- 第15回 現代社会におけるキリスト教社会倫理の可能性—公共哲学との対話

授業概略

或る現代の思想家たちが、社会や国家やそれらの倫理を考える際にモデルとした古代ギリシャ・ローマの思想は、現代の状況を考える際に有効でない、旧すぎると判断される場合（例えば「公共哲学」の提唱者 山脇直司 氏など）があるが、私は、このような旧思想に対するネガティブな判断には与しない。むしろ旧思想の中に、現代・将来におけるあるべき姿のパラダイムや未来の可能性があると確信している。もちろん旧いものたんなる繰り返しではダメだが、これまで何度も経験してきたように、新しく即効的に叫ばれる思想は、見栄えはしても壊れやすい安もの電気製品に似ているという感じがする。また生命の再生産を志向する現代の高度な科学・技術にも疑問を感ずる。キリスト教社会倫理は、このような精神に対決していく意思や展望がないと成立しない。しかし、人間の理性や人間の可能性に基礎をおいた自由な思索の成果である哲学や科学・技術との批判的対話無くしても成り立たない。その意味で、本講義キリスト教社会倫理は、対決・模索の試みという性格を持つ。といっても、講義するものの個人的意見ではなく、諸説を紹介しながら、問題へのアプローチを新し

い状況の中で考えていく。

教科書

授業時に指示する。

参考書

旧約・新約聖書（新教同訳）、プラトン『ソクラテスの弁明』岩波文庫、同『国家』岩波文庫、マキアヴェリ『君主論』、J.ロック『統治二論』岩波文庫、ハンナ・アーレント『全体主義の起源』みすず書房、F.マイネッケ『近代史における国家理性の理念』みすず書房、太田秀道『共同体と英雄時代の理論』山川出版社、M.ウェーバー『古代ユダヤ教』岩波文庫、J.ロールズ『正義論 改訂版』紀伊國屋書店、W.フーバー・H.E.テート『人権の思想』新教出版社。他は講義時に提示する。

成績評価の方法・基準

出席は重視する。学期の中盤に小レポート。学期末は、レポート或いは試験。

事前準備学習

履修上の注意（1）日常の社会・政治現象に向かって自分の問題意識をぶつけ、それを表現できるようにしておくこと。（2）世界史、現代社会についての基礎知識をそれぞれの仕方準備しておくこと。（3）キリスト教概論などで聖書の思想になれておくのも必要でしょう。

## 40002 キリスト教福祉

(Christian Welfare)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 山中 俊克

履修可能学科

M

関連資格

到達目標

社会福祉が対象とする「人」についてのキリスト教的な視点で理解するとともに、キリスト教が社会福祉の発展に与えた影響について理解することができる。

授業計画

- 【第01回】授業のオリエンテーション
- 【第02回】社会福祉とは何か
- 【第03回】キリスト教の信仰の意味
- 【第04回】人間とは何か
- 【第05回】生と死の問題
- 【第06回】キリスト教社会福祉実践者（マザーテレサ）
- 【第07回】キリスト教による人間理解1（ジェンダー）
- 【第08回】キリスト教による人間理解2（子ども）
- 【第09回】キリスト教社会福祉実践者（石井十次）
- 【第10回】キリスト教による人間理解3（障害児・者）
- 【第11回】キリスト教による人間理解4（家族）
- 【第12回】キリスト教信仰による生き方（水野源三）
- 【第13回】キリスト教による人間理解5（高齢者）
- 【第14回】キリスト教と社会
- 【第15回】まとめ

授業概略

社会福祉の歴史的発展の流れをみるときに、キリスト教が与えた影響は非常に大きいといえます。そしてキリスト教の信仰に基づいて生きた人、あるいはキリスト教信仰により社会福祉の実践に携わってきた人びとの生き方に着目することは、社会福祉とキリスト教との関係だけではなく、キリスト教の基礎となっている聖書について学ぶ機会にもなります。

この授業では、まず福祉が対象とする「人」を聖書ではどのようにとらえているのか、キリスト教に基づく人間理解を深めることを目的とします。神の側からみた人間理解といえるでしょう。また、生活していくうえで困難を抱えた人びとを支えたキリスト教社会福祉を実践した人びとのたらしきを通して、生きる意味、他者を支える意味について

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

考察します。

**教科書**

石居正己・熊澤義宣監修、江藤直純・市川一宏編集 『社会福祉と聖書』 リトン、および聖書。

**参考書**

志村 真 『イエス・キリスト教の人間観』 角川学芸出版 2008年。

**成績評価の方法・基準**

出席状況、授業態度、課題レポートの完成度、および定期試験などの総合評価を行います。

**事前準備学習**

なし。

## 40003 差別と国際社会

(Discrimination and International Society)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 藤田 悟

**履修可能学科**

E Pe Pc C W F N M

**関連資格**

**到達目標**

違いを違いとして認識することは当然だが、ある違いが差別の理由とされるのはどうしてなのか？ この問いを念頭に置きつつ、現代社会の差別の諸相を具体的に検討する。世界の現状を見ると、近代国家の枠組みの中に押し込まれていた民族差別、宗教対立などの確執が吹き出しているといえよう。世界全体を覆う差別の構造と、国という単位のなかでの差別が相互に影響しあいながら複雑な展開を示している。TV、新聞などの報道を例にとりながら、差別をなくす方向での国際社会の努力についても検討する。

**授業計画**

- 1) 「差別」という言葉で学生は何を思うか？
- 2) 続き
- 3) 「差別」とされる事象を世界各地に見る アジア
- 4) ヨーロッパ
- 5) アメリカ大陸
- 6) アフリカ
- 7) オセアニア
- 8) 日本における差別
- 9) 中間総括
- 10) 世界規模における差別・経済格差
- 11) 統計数値に見る差別
- 12) 宗教・人種・民族・言語などと差別
- 13) 「差別はなくすことができるか？」について議論
- 14) レポート提出、内容紹介
- 15) レポートのいくつかを発表・コメント

**授業概略**

人種・民族・文化・言語・身分・性別、経済的格差など「違い」が優劣・強弱の違いとなったり、排除や迫害の理由のになってしまう仕掛けを、世界各地の現状を見ながら考える。

**教科書**

なし

**参考書**

必要に応じて、書籍、文書、WebSiteなどを指定する

**成績評価の方法・基準**

授業参加、期末のレポートによる

**事前準備学習**

世の中の出来事に敏感であってほしい

## 40004 労働と人権

(Labor and Human Rights)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 藤田 悟

**履修可能学科**

E Pe Pc C W F N M

**関連資格**

**到達目標**

「雇用者と労働者」という関係では、労働者の権利にまつわる多くの問題が検討されなければならない。労働基準法や動労組合法の守備範囲である。利潤追求一本やりに邁進しかねない企業を社会的に抑制する力として「労働者の権利」が規定されている。では、働きたくても職がない場合はどう考えるのか。さらに、労働を人間が自然・社会環境に働きかける自己実現活動としてとらえるならば、労働を人権の一つの構成要素とする観点も成り立つ。「労働者の人権」の問題から「人権としての労働」までを考察の対象とする。

**授業計画**

- 1) イントロダクション
- 2) 「働く」と「労働」
- 3) 討論・『蟹工船』と『ああ野麦峠』
- 4) 続き
- 5) 討論・『モダンタイムズ』
- 6) 続き
- 7) 働かざる者、食うべからず／能力に応じて働き、必要に応じて受け取る
- 8) 終身雇用・年功序列制の功罪
- 9) 生産性を上げようとした時代・需要を創出しようとする時代
- 10) 児童労働・職場における男女
- 11) 「成熟した社会」における労働
- 12) 「先進国」における労働と貧困・日本の場合
- 13) 「先進国」における労働と貧困・欧米の場合
- 14) 働くことと「人間の幸せ」「豊かさ」とは？
- 15) まとめ

**授業概略**

授業では、上記のテーマについて、各自が調べ、考えてきたことを持ち寄り、討論を通して理解を深めることとする。

**教科書**

なし

**参考書**

必要に応じて、書籍、資料、WebSiteを指定する

**成績評価の方法・基準**

授業参加と期末のレポートによる

**事前準備学習**

世の中の動きに敏感であってほしい

## 40005 ジェンダーの現在

(Gender Today)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 滝田 薫

**履修可能学科**

M

**関連資格**

**到達目標**

現代社会とそこに生きる人間について関心のある人であれば誰でも、たとえその人の専門領域が違っているにしても、また、方法のあるいは生き方の違いがあるにしても、「フェミニズムと女性学あるいはジェンダースタディーズ」に多かれ少なかれ関心をもっていることでしょう。この領域は、「性、性差、性差別」、といった概念を取り上げ

ますし、それとの関連で、人間の生き方、あり方、人間の周りをとりまく諸環境、家庭、学校、職場、地域、国家、社会などのあり様まで、広範な領域にわたって、問題関心を展開しています。したがって、この世界をどう生きるか考える人にとって、この領域は避けては通れないのです。もちろん、女性であると男性であることを問わずです。しかし、それと同時に、「フェミニズムと女性学あるいはジェンダースタディーズ」をめぐっては、まさに百家争鳴、さまざまな立場、主張、方法、理論、そして運動があり政策がありますから、この領域について、どこから手をつけていくか迷うような状況です。この講義では、まずそのことを意識しながら、この領域について、細部に囚われずに概説したいと考えています。この講義を通じて、受講生の皆さんの生きている現実の姿が、色々な角度から見えてくるでしょうし、将来、どう生きていくか、考える機会になるでしょう。

#### 授業計画

全15回の講義を以下の予定で進めますが、順番等、変更されることがあります。

- 第1回 この講義について (フェミニズム 女性学 ジェンダースタディーズ)
- 第2回 女性性をめぐる現象学 (性、性差、性差別)
- 第3回 女性について (西洋 前近代の女性観 近代社会の女性観)
- 第4回 女性について (キリスト教の女性観 イスラーム思想の女性観)
- 第5回 女性について (仏教の女性観 儒教の女性観 日本における女性観)
- 第6回 差別について (心理学の立場から 社会科学の立場から 思想、哲学の立場から)
- 第7回 フェミニズム運動 (運動の歴史)
- 第8回 女性学あるいはジェンダースタディーズ 成立とその背景
- 第9回 女性学あるいはジェンダースタディーズ さまざまな理論Ⅰ
- 第10回 女性学あるいはジェンダースタディーズ さまざまな理論Ⅱ
- 第11回 女性と法律 女性と経済
- 第12回 女性と政治 女性と労働
- 第13回 女性政策
- 第14回 女性をめぐり国際社会の動き
- 第15回 まとめ

#### 授業概略

まず、この領域の独特の性格について解説します。次に、女性観の歴史を辿ります。さらに、女性解放の運動の歴史を見ます。差別について、心理学、社会科学、思想と哲学それぞれの領域での知見を紹介し、その原理解剖を試みます。そのうえで、女性学あるいはジェンダースタディーズが成立する経緯、あるいはその背景を確認し、さらに、発展してきた学問としての流れを探ります。また、女性解放運動の流れについて見ます。その後、日本あるいは日本をとりまく国際社会において、女性はどうな環境下で、生きているか、生きていくことになるか、それを实地に、探ってみます。

#### 教科書

教科書は使いません。手作りのプリント、レジュメを配布します。受講生諸君は、全資料を保存し、それらを核として、ご自分のノートを作成してください。

#### 参考書

参考文献については、講義の際に、指示します。なお、以下の本は初学者向きです。

「女性の権利—ハンドブック女性差別撤廃条約」 岩波ジュニア新書

「女性学・男性学—ジェンダー論入門」 有斐閣アルマ

「女性学入門—ジェンダーで社会と人生を考える」

MINERVA TEXT LIBRARY

なお、少しレベルの高い参考書を読みたい人には、以下の本が便利です。

文春新書 「東大教師が新入生にすすめる本」 1 2

#### 成績評価の方法・基準

毎回、質問票を配る形で出欠をとります。講義内容に関する良い質問があれば、成績に加味します。試験はテーマを指定した論文審査になります。

#### 事前準備学習

参考書を読んでおいてください。日常、新聞は必読。ただし、一紙にかぎらず、二紙以上を比較しながら読んでください。

#### 備考

シラバスは、あくまで、目安です。順番の変更等がありますので、承知しておいてください。なお、一方通行の講義にはしたくないので、受講生諸君の質問など、大切に、教室での対話に工夫したいと思います。

## 40006 現代社会と政治

(Contemporary Society and Politics)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 滝田 薫

履修可能学科

M

関連資格

教職

到達目標

この講義は、小学校、中学校、高等学校における、社会科、公民科の教科内容中の特に政治の守備範囲を押さえた上で講義を組み立てます。本講義を通じて、政治と政治学の基礎について学ぶとともに、随時、時事問題を折り込んで、現代社会が抱える具体的な問題、課題とそれらを分析する諸理論について講述し、学生諸君に社会科学的な視野を開く機会となるよう配慮します。

#### 授業計画

全15回の講義を予定していますが、それを三つの部分で構成します。最初の2回は、社会科学入門、本論として、政治の基本について12回、最後の1回をまとめとします。

第1回 この講義の狙い (含む 社会科 公民を学ぶ目的について)

第2回 社会科学とは何か (含む 現代社会と人間の主体性)

第3回 政治と政治学 (含む 民主制と政治参加)

第4回 政治権力と人間 (含む 法と人権)

第5回 国民 国家 政府 (含む 立法 行政 司法のしくみ)

第6回 個人と憲法 (含む 日本国憲法のしくみ 国民主権 基本的人権 平和主義)

第7回 民主主義と権力 (含む 三権分立)

第8回 政党 (含む 選挙制度)

第9回 政治イデオロギー (含む 政治思想と政治制度)

第10回 政治文化 (含む エリートと大衆 カリスマとリーダーシップ)

第11回 世論と投票行動 (含む マス・メディア論)

第12回 公共政策 (含む 地方自治と地方分権)

第13回 安全保障と外交 (含む 主権とナショナリズム)

第14回 国際関係と国連 (含む 国際社会と人権)

第15回 まとめ

#### 授業概略

社会科学を学ぶに際して、学生が最初に出会うのが、ドイツの社会学者 M・ウェーバーによる社会科学の方法論「価値自由」です。この言葉の意味は、価値評価から、距離を意識的にとることを意味します。政治現象を対象として研究する際、研究者の政治的立場、主義や信条によって、評価が違って来る、そうした可能性が常に付きまといま

なぜなら、政治の研究者の頭の中には、常に「今そこにある政治」を客観的にとらえようとする意図と、それとは別に、「あるべき政治」についての個人的評価が並存しているからです。しかし、研究の結果が、研究者の主観によって影響されているとしたら、政治学という学問の科学的な根拠は失われてしまいます。これは政治の研究にとって、実に困難な問題です。そこで、ウェーバーは、客観的事実の探求を理想とした場合にも、あるべきものの探求という主観的評価から離れることはできないということを言い、だからこそ、研究者は自らの依って立つ価値、主観を自覚し、それに囚われない認識を目指すことの大切さを指摘したのです。

特に、将来、教員として教壇に立つ人にとっては、このことの理解が大切です。

#### 教科書

教科書は使用しません。手作りのプリントとレジュメを配布します。全資料を保存し、それを核として自分のノートを作成してください。

#### 参考書

参考書、文献については、授業中、項目ごとに指示します。初学者は、以下の本を参考にするとういでしょう。小学校 中学校 社会科教科書 高等学校 公民の教科書 岩波ジュニア選書 「政治のしくみがわかる本」 その他社会、政治、経済、関連多数。

なお、少しレベルの高いものを読みたい人は、以下の本をガイドにするとよいでしょう。

文春新書 「東大教師が新入生にすすめる本」 1 2

#### 成績評価の方法・基準

毎回、質問票の形で出欠をとります。講義内容に関する良い質問があれば、成績に加味します。試験はテーマを指定した論文考査になります。

#### 事前準備学習

参考書を読んでおいてください。日常、新聞は必読。ただし、一紙ではなく、最低二紙を比較しながら読むことが大切です。

#### 備考

一方通行の講義にはしたくないので、学生諸君からの質問とそれへの回答、つまり教室での対話を大切にしたいと思います。

## 40007 現代社会と表象文化

(Culture and Representation in Contemporary Society)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 和泉 涼一

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

- 1) 「表象文化」とは、自己と世界の関わりを、言語や視聴覚映像などさまざまな媒体を通じて探求する行為ないしその行為の結果をあらわします。この授業では、さまざまな映像資料、とりわけ劇映画を通じて、現代社会がどのような問題を抱えているのかを理解します。
- 2) それらの作品に描かれた諸問題を、その背景から理解することを目指します。
- 3) それらの諸問題を、われわれ自身の存在と生活につながる切実な問題として捉えうる感性を養いたいと考えます。

授業計画

- 1) 20世紀の戦争その1 (日露戦争と第一次世界大戦)
- 2) 20世紀の戦争その2 (第二次世界大戦その1)
- 3) 20世紀の戦争その3 (第二次世界大戦その2)
- 4) 20世紀の戦争その4 (第二次世界大戦その3)
- 5) 20世紀の戦争その5 (インドシナ戦争ほか)

6) 科学技術と人類の進歩

7) 科学技術と自己認識

8) 独裁と抑圧

9) 家族の崩壊

10) メディアと倫理

11) 孤独と暴力

12) 人種偏見その1 (差別)

13) 人種偏見その2 (移民)

14) 性の解放

15) 管理社会の恐怖

授業概略

毎回の設定されたテーマに沿ってさまざまな映像作品を紹介し、これを分析しながらそれぞれのテーマの内容を掘り下げていきます。

学生は、授業において言及された作品を自分自身で観賞し、かつ指示されたテーマについての調査と理解が求められます。

毎回、それぞれのテーマについて何らかの課題が出されます。

教科書

必要に応じてプリントを配布します。

参考書

町山智浩『映画の見方がわかる本』、洋泉社、2002年。

町山智浩『映画の見方がわかる本80年代カルトムービー編』、洋泉社、2005年。

成績評価の方法・基準

課題の提出状況と筆記試験の成績を総合して評価します。

事前準備学習

ありません。

## 40008 コミュニケーションと言語学

(Communication and Linguistics)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 三上 司

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

言語学の知識に基づいて、効果的なコミュニケーションを行う。

授業計画

次のテーマで講義を進めて行く。

1. 言語の特徴：ラングとパロール、連辞的關係と系列的關係、通時態と共時態
2. 表現と場面：御用論の考え方
3. 言外の意味：指示、場所の指示、時間の指示
4. 直示表現：談話中の指示
5. 協調の原則：Griceの4つの公理
6. 比喩と連想（類推）：推意による解釈
7. 前提：疑問文、叙実的述語
8. 発話行為：Austin (1962) の主張
9. 遂行分析：陳述、依頼、約束
10. 間接発話行為：疑問文、命令文、依頼文
11. 丁寧さの原則：Leechの原則、Brown & Levinsonのストラテジー
12. 個人語、方言：地域差、階層差
13. コミュニケーション体系：枠組みとその特色
14. 異文化間コミュニケーション：世界言語、言語と民族、言語と国家
15. 言語の類型：語族、類型論

授業概略

言語はコミュニケーションの道具である、と一般に言われている。しかし、言語はすべての種類の情報伝達に向いているとは限らない。このことは、パイロットと管制官の

交信が原因で事故が起こるといふ事実、ひもやネクタイの結び方を言葉だけで説明することは至難の業であることなどを考えてみても分かることである。言語は空間や感覚・感情に関する情報を伝達することは苦手なのである。また、言語は真実だけではなく嘘も伝えることができるという側面も持っている。この講義では、コミュニケーションの様々な側面について、言語学の視座から観察・分析し、コミュニケーションの仕組みについて考えることが目標である。

#### 教科書

プリントを配布する予定です。

#### 参考書

小泉 保 著『言語学とコミュニケーション』 大学書林  
成績評価の方法・基準

授業への参加状況と筆記試験

#### 事前準備学習

特に準備すべき作業はありません。言語やコミュニケーションに興味のある方なら誰でも参加することができます。

## 40009 人生と儀礼

(Life and Rites)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 森 謙二

履修可能学科

M

関連資格

到達目標

人生の中で儀礼はどういう意味をもつのか、について理解すること

授業計画

- 1 日本の家族と家（1）
- 2 日本の家族と家（2）
- 2 家族の多様性 一隠居制家族と多世代同居家族
- 3 家族の地域性
- 4 女性の帰属（1）
- 5 女性の帰属（2）
- 6 人生儀礼とは（1）
- 7 人生儀礼とは（2） 出産から七五三まで
- 8 人生儀礼とは（3） 成人儀礼
- 9 人生儀礼とは（4） 厄年 4-4 長寿の儀礼
- 10 人生儀礼とは（5） 葬送儀礼（1）
- 11 人生儀礼とは（6） 葬送儀礼（2）
- 12 人生儀礼とは（7） 失われる儀礼
- 13 墓の民俗（1） 両墓制
- 14 墓の民俗（2） 現代の変化
- 15 まとめ

授業概略

この講義では、日本社会の多様性を前提として、まず伝統的な家族構造の文化的な特質について考えるところから出発します。私達は一般的には家族の中で生まれ、家族によって育てられ、社会にでて、結婚をし、子どもを育て、老人になり、そして死んでいきます。私達は、家族・社会のなかでどのような生きていくのか、民俗学的な視点から考えてみたいと思います。また、人生にとって儀礼顔のような意味をもつか、についても言及します。

教科書

なし

参考書

宮田登『冠婚葬祭』（岩波新書）

成績評価の方法・基準

試験（80%）と出席（20%） ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

事前準備学習

授業の前にユニバから資料をダウンロードしてください。授

業が終わったら、ノートの整理を。

## 40010 心の健康

(Mental Health)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 木寺 静代

履修可能学科

M

関連資格

到達目標

「心の健康」に関して広い知識を得ることができる。自らの「心の健康」を保ち、その健康な状態を向上させる知識、方法を理解することができる。

発達障害、統合失調症、うつ病、認知症等の精神疾患の症状、治療、接し方を資料に基づいて説明することができる。

授業計画

- [第01回] 心の健康とはなにか
- [第02回] 精神保健の歴史
- [第03回] 適応と心の健康
- [第04回] 私たちとストレス
- [第05回] 防衛機制と対処行動
- [第06回] 人間の発達と心の健康
- [第07回] 子どもにおける心の問題
- [第08回] 行動上の問題
- [第09回] 発達障害への理解と対応
- [第10回] 思春期における心の問題
- [第11回] 統合失調症への理解と対応
- [第12回] うつ病への理解と対応
- [第13回] 大人における心の問題
- [第14回] 認知症への理解と対応
- [第15回] 心の健康を保つために

授業概略

心の健康とはなにかを、心理学の観点から考えます。心は身体と同じように、傷ついたり、病気になることがあります。受講者と心の健康の保ち方を考えながら、心の病気について学びます。また、障害者への対応も学びます。!はじめて精神保健の授業をとる人を対象とした初心者向けの授業です。

教科書

なし

参考書

徳田克己 他数名著『わかりやすい心の健康学』（文化書房博文社）

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

「心の健康」とは何かを考えながら本を読んだり、精神疾患関連のテレビ番組を見ておくと、講義の理解が深まります。

## 40011 生命倫理

(Bioethics)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 中川 明博

履修可能学科

M

関連資格

教職

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

**到達目標**

医療技術の急速な発達によって人間の生と死を人為的にコントロールすることが可能になった。しかしそうした変化は、伝統的な価値観では対処しきれない新たな倫理的問題を引き起こしている。脳死、臓器移植、出生前診断、尊厳死、代理出産などをめぐる問題がその代表的なものである。この講義の目標は、新しい医療技術がどのような倫理問題を引き起こし、それをめぐってどのような議論がなされているのかを知ること、倫理の根本原則にはどのようなものがあるのかを学び、それを説明できるようにすること、そして受講者ひとりひとりが望ましい生と死のあり方について考える力を養うことにある。

**授業計画**

- 【第01回】 遺伝～遺伝子・DNA・ゲノム
- 【第02回】 生命操作
- 【第03回】 パーソン論～人間とは何か
- 【第04回】 代理母・代理出産
- 【第05回】 お産の社会史～医学化された歴史
- 【第06回】 優生学と社会ダーウィニズム
- 【第07回】 脳死と臓器移植
- 【第08回】 臓器移植の問題点
- 【第09回】 尊厳死と安楽死
- 【第10回】 医者と患者～インフォームド・コンセント
- 【第11回】 キュアとケア
- 【第12回】 キリスト教の生命観
- 【第13回】 仏教の生命観
- 【第14回】 日本人の生命観
- 【第15回】 生命倫理におけるその他の諸問題とまとめ

**授業概略**

医療技術の発展によって現在どのようなことが可能になっているのか、そしてそこから生じる新たな倫理問題にどのようなものがあるのかを項目ごとに解説し、生命をめぐる諸問題の倫理的是非を検討していく。倫理問題を考える際に規準となる倫理的な原則についても説明していく。あわせて洋の東西の生命観も取り上げていきたい。必要に応じてDVDも使用する予定。

**教科書**

生命倫理教育研究協議会『テーマ30生命倫理』教育出版、2008年（改訂3版）、本体900円

**参考書**

なし。

**成績評価の方法・基準**

学期末試験（100点満点）の素点を、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価する。ただし無断欠席1回につき10点、無断遅刻早退1回につき5点を減じる。

**事前準備学習**

教科書の該当箇所を事前に読んでくること。

**備考**

就職活動等によって授業を欠席する場合は、必ず連絡すること。

**40012 自然と環境**

(Nature and Environment)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 北 脩

履修可能学科

M

関連資格

到達目標

我々の身の回りにある様々な化学物質のヒトに対する影響や生態系に及ぼす影響について関心を持つことができる。

授業計画

1～5、化学物質についての基本的事項の理解

・無機物と有機物

・意図的化学品と非意図的化学品

・化学物質の生態内動態

・化学物質の毒性評価

6～9、界面活性剤の生態影響

・界面活性剤の動物影響

・界面活性剤の植物影響

10～14、化学物質による環境汚染

・ダイオキシン類による汚染と生物影響

・内分泌かく乱化学物質の汚染と生物影響

15、まとめ

**授業概略**

人類は、生活の利便性・快適性を求めて多種多様な化学物質を作り出し、最終的にはそれらの化学物質を環境中に放出してきた。近年の様々な環境問題はまさにそのことによって生じている。

授業では、問題を化学物質の生物影響に絞って検討するが、理解を確かなものにするために可能な範囲で実験・実習を組み込んでいく。ここでの実験対象化学物質としては生活の中に深く入り込んでいる界面活性剤を予定している。界面活性剤は石鹸や洗剤としてはもちろん食品の中にもさまざまな目的を持って添加されている。

**教科書**

必要な資料は授業時に配布します。

**参考書**

随時紹介します。

**成績評価の方法・基準**

レポート、各種提出物、期末試験および出席状況など総合的に評価します。

**事前準備学習**

高等学校で履修した化学Iの教科書に目を通しておくと授業が理解しやすいでしょう。

**40013 環境と社会**

(Environment and Society)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 飯田 利明

履修可能学科

M

関連資格

到達目標

食を通して、現代の人の生活と自然環境の関係を考えることができる環境の中でのこれからの社会のあり方について、自分なりに考える基礎的な知識を持つことができる。

授業計画

1. はじめに
2. 50年前の茨城と日本の食生活
3. 身近なLost World
4. 石油に依存した経済成長と人口爆発
5. 大量生産、大量消費、大量廃棄社会＝都市化した人類
6. 食料生産の増加と農業保護政策による低価格化
7. 過剰穀物を利用した肉食とバイオ燃料
8. 環境の過剰利用と環境汚染
9. 気候変動と食料生産 水と気温
10. 生産現場では 石油依存農業と緑の革命
11. 慣行栽培と有機栽培 「有機農業推進法」
12. 遺伝子組み換え作物の現状
13. 都市を支える食の外部化とファストフード化
14. 捨てられる「食品」と食料自給率
15. 人は何を食べて生きるのか

**授業概略**

わたしたちが生きていくのに必要不可欠な「衣食住」は、すべて回りの自然環境から産み出されている。この授業では、中でも日々欠かせない「食」を中心として考えてみたい。

現代のわたしたちは忙しく、目先のことしか見えない現実がある。環境のこと、日本と世界で起きていること、その経緯など、あまりにも複雑多様でわかりにくい。しかも人は忘れやすく、自分に都合の悪いことは見て見ぬ振りができる存在でもある。

しかし生活スタイルの過去100年間の変化は、質量共にあまりにも大きく、地域に根ざした伝統的生活スタイルが失われた。そして100年前にはまったく考えられなかったことだが、今ではわたしたちの日々の食卓が世界と繋がっている時代になった。

この状況が今後も続くのか。持続可能な生活を実現する鍵は、どこにあるのか。だからこそ変化という時間方向の探索と合わせて、わたしたちの住む世界とここ茨城に軸足を置いて、食を通して、人と環境の関係を探してみたい。

#### 教科書

なし

#### 参考書

授業内容を深めるために、必要な参考書、ホームページ等を紹介する

#### 成績評価の方法・基準

期末のレポートによる

#### 事前準備学習

なし

## 40014 情報社会とメディア

(Information Society and Media)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 川又 復三

#### 履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

#### 関連資格

#### 到達目標

情報社会の移り変わりやメディアの内情などについて自分の考えを持ち、発表できる

#### 授業計画

- 1、メディアの変遷
- 2、現代メディアの実情について (1)
- 3、 " (2)
- 4、放送精度と番組制作・編成
- 5、情報の信頼性について
- 6、広告について
- 7、視聴率調査、世論調査、情報の保護と公開
- 8、事件発生から刑の確定までの報道について
- 9、放送で気になる言葉 (尊敬語、謙譲語、丁寧語)
- 10、 " (放送禁止用語、誤用、乱用)
- 11、冤罪とその土壌 (府川事件、足利事件など)
- 12、災害とメディアについて
- 13、記事の書き方、読み方、書かれる立場
- 14、メディアの今後について
- 15、まとめ、補足など

#### 授業概略

ここ数年、インターネットと携帯電話の急速な普及により、国内外から様々な情報が直接、あるいは新聞テレビ、ラジオ、雑誌などを通して入ってくる。

情報環境が著しく変化しており、いわば情報維新といえる時期である。また、必要な情報を広くも深くも手に入れることができる情報選択時代でもある。一方、既存のメディア側も携帯電話の普及と技術革新で新たな対応をせまられている。こうしたなか情報環境の推移やメディアの役割や課題、報道のあり方などを学ぶ。

#### 教科書

資料を配布する

#### 参考書

特になし

#### 成績評価の方法・基準

レポートの評価と出席率などを総合的に判断する

#### 事前準備学習

新聞、テレビ、ラジオなどのニュースを毎日チェックする

## 40015 ミクロ経済学入門

(Microeconomics)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 浅野 義

#### 履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

#### 関連資格

教職

#### 到達目標

ミクロ経済学は、現実の経済現象は価格現象に集約的に表現されるということを基本認識とし、分析の中心を価格におくことから、価格理論とも呼ばれています。

この授業では、消費者と生産者はどのような行動をとるのか、これらの行動によって財・サービスの価格は市場においてどのように決定されるのかを理解することができます。また、独占や市場の失敗、国際貿易などの分野にも応用できるための基礎を養うこともできます。

#### 授業計画

- 第01回 ミクロ経済学とはどのような学問か
- 第02回 需要と供給
- 第03回 需要曲線と消費者行動 (1) 需要の価格弾力性、消費者余剰
- 第04回 需要曲線と消費者行動 (2) 無差別曲線と効用、補完財と代替財
- 第05回 費用の構造と供給行動 (1) 平均費用と限界費用
- 第06回 費用の構造と供給行動 (2) 供給の価格弾力性、生産者余剰
- 第07回 市場取引と資源配分 (1) 市場メカニズム、余剰分析
- 第08回 市場取引と資源配分 (2) 資源配分の歪み
- 第09回 ゲームの理論
- 第10回 市場の失敗 (1) 外部効果
- 第12回 市場の失敗 (2) 公共財
- 第13回 不確実性と不完全情報の世界
- 第14回 国際貿易 (1) 比較生産費説、貿易の利益
- 第15回 国際貿易 (2) 貿易政策の効果

#### 授業概略

この授業は経済学の二大理論のひとつであるミクロ経済学の入門講座で、講義形式で行います。

この授業では、ミクロ経済学の基礎として、まず、需要と供給、需要曲線と消費者行動、費用構造と供給行動、市場取引と資源配分などの基本的な概念を解説します。次いで、ゲームの理論、独占と競争の理論、市場の失敗、国際経済などの分野へのこれらの基本的な概念の適用について考えます。

#### 教科書

伊藤元重著『入門 経済学』(第3版) 日本評論社 2009年

#### 参考書

授業の進行に合わせて紹介します。

#### 成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

#### 事前準備学習

なし

#### 備考

学部基礎科目の「マクロ経済学入門」を併せて履修することが望ましい。

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 40016 マクロ経済学入門

(Macroeconomics)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 浅野 義

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

マクロ経済学は、現実の経済現象は国民所得の規模とその変動に集約的に表現されるということの基本認識とし、分析の中心を国民所得におくことから、国民所得理論とも呼ばれています。

この授業では、生産物市場における国民所得はどのように決定されるのか、GDR、利子率、失業率、物価などのマクロ経済変数はどのような相互作用を持つのかを理解することができます。また、経済成長や国際マクロ経済学などの分野にも応用できるための基礎を養うこともできます。

授業計画

- 第01回 マクロ経済学とはどのような学問か
- 第02回 経済をマクロからとらえる (1) マクロ経済の鳥瞰図、GDPの三面等価
- 第03回 経済をマクロからとらえる (2) 成長方程式、経済成長と寄与度
- 第04回 有効需要と乗数メカニズム (1) 乗数理論
- 第05回 有効需要と乗数メカニズム (2) 国民所得決定の理論
- 第06回 貨幣の機能 (1) 貨幣の定義と機能
- 第07回 貨幣の機能 (2) マネーサプライと信用乗数
- 第08回 マクロ経済政策 (1) 金融政策の効果
- 第09回 マクロ経済政策 (2) 財政政策の効果
- 第10回 インフレと失業 (1) インフレーション
- 第11回 インフレと失業 (2) 失業
- 第12回 経済成長 (1) 資本蓄積と経済成長
- 第13回 経済成長 (2) 経済成長モデル
- 第14回 国際マクロ経済学 (1) 為替レートとマクロ経済
- 第15回 国際マクロ経済学 (2) マンデル＝フレミングの理論

授業概略

この授業は経済学の二大理論のひとつであるマクロ経済学の入門講座で、講義形式で行います。

この授業では、マクロ経済学の基礎として、まず、国内総生産 (GDP) などの国民所得概念、有効需要と乗数のメカニズム、貨幣の機能、マクロ経済政策、インフレと失業などの基本的な概念を解説します。次いで、経済成長や国際経済などの分野へのこれらの基本的な概念の適用について考えます。

教科書

伊藤元重著『入門 経済学』(第3版) 日本評論社 2009年

参考書

授業の進行に合わせて紹介します。

成績評価の方法・基準

最終試験の素点を100点満点とし、無断欠席1回につき10点、無断遅刻1回につき5点を減じたものを、「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

備考

学部基礎科目の「ミクロ経済学入門」を併せて履修することが望ましい。

## 40017 法学 a

(Law a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 安藤 博

履修可能学科

M

関連資格

教職 福祉主

到達目標

学生にとって身近である法律のテーマを取り上げていきます。生活の視点から、具体的に考えることができます。法的なものの見方、考え方を身につけることができます。

授業計画

- 第01回 ガイダンスとアンケートの記入
- 第02回 法とは何か
- 第03回 マナー、モラル、ルール、規範を考える
- 第04回 「六法」の見方、使い方
- 第05回 児童虐待防止法と児童福祉法
- 第06回 子どものトラブルと法律
- 第07回 親子と法律
- 第08回 夫婦 (結婚・離婚) と法律
- 第09回 高齢社会と法律 (1) 扶養と介護
- 第10回 高齢社会と法律 (2) 相続と遺言
- 第11回 医療と法律 (1) 患者の自己決定権
- 第12回 医療と法律 (2) 臓器移植法
- 第13回 医療と法律 (3) 「代理母」裁判
- 第14回 医療と法律 (4) 安楽死と尊厳死
- 第15回 全体のまとめ

授業概略

社会に起こる事象について、法律はどう考え、解決しようとするのか、法の基本を理解します。そして、誰もが直面する親子、夫婦、医療などのテーマを例に、わかりやすく解説します。

教科書

『新六法』(三省堂)を使います。

資料を配布しますので、大切に保存してください。試験の際必要になります。

参考書

各テーマの参考となる本などは、テーマを取り上げた際に紹介します。

成績評価の方法・基準

出席、アンケート、宿題、試験などを総合的に判断します。

事前準備学習

社会に起こっているトラブル・事件などに関心を持つことが大切です。生活の中で、社会の出来事に敏感になり、問題意識を持つことが事前の勉強です。

備考

受講生が多い科目ですので、私語については厳しく対処します。

## 40017 法学 b

(Law b)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 古屋 等

履修可能学科

M

関連資格

教職 福祉主

到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私たちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法

や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

#### 授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件Ⅰ
- 7 犯罪の成立要件Ⅱ
- 8 刑事手続の基本原理
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法Ⅰ
- 12 財産関係と法Ⅱ
- 13 家族関係と法Ⅰ
- 14 家族関係と法Ⅱ
- 15 まとめ・テスト

#### 授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

#### 教科書

上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕（成文堂）2500円＋税

#### 参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

#### 成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

#### 事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

## 40017 法学 c (Law c)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 古屋 等

履修可能学科

M

関連資格

教職 福祉主

到達目標

社会における法の存在を認識し、その機能を役割を、私た

ちの権利や自由と関連づけて理解することができる。民法や刑法などの身近な法律をめぐり、どのような社会問題が生じているかを認識することができる。

#### 授業計画

- 1 ガイダンス
- 2 法とは何か
- 3 法の種類と存在形式
- 4 法の段階的構造
- 5 罪刑法定主義
- 6 犯罪の成立要件Ⅰ
- 7 犯罪の成立要件Ⅱ
- 8 刑事手続の基本原理
- 9 裁判手続の基本構造
- 10 民法の基本構造
- 11 財産関係と法Ⅰ
- 12 財産関係と法Ⅱ
- 13 家族関係と法Ⅰ
- 14 家族関係と法Ⅱ
- 15 まとめ・テスト

#### 授業概略

社会のルール（規範）としての法の役割と機能を認識することにより、法の存在意義と遵守の必要性について説明していきます。法というと、どうしても私たちが規律するというイメージが強く、場合によっては罰せられる、できるだけ関わらないことが望ましい対象だと思われるかもしれませんが、法とは私たち自身が、私たちや権利や自由を守るために、私たち自身で取り決めた、私たちのルール（約束）なのです。したがって、それを守ること、従うことは当然のことなのです。罰せられること、賠償の支払いなどを通じて責められることは、約束違反に対する制裁にすぎません。これらは、あくまで二次的な、約束を守ってもらうための手段にすぎないのです。このような、法を守る必要性について、私たちの生活に深く関わっている民法や刑法を通じて学んでいきます。また、それらをめぐる紛争解決のための法、すなわち、裁判法を勉強することにより、将来社会人になった時の問題の対処法や裁判員になった場合の心得についても勉強していきます。

#### 教科書

上野幸彦・古屋 等『国家と社会の基本法』〔補訂版〕（成文堂）2500円＋税

#### 参考書

『六法』（種類は問いませんが、新規に購入される場合は、岩波書店の『セレクト六法』1300円＋税をおすすめします）

#### 成績評価の方法・基準

授業中に行う小テスト（3回）を20%、期末試験を80%に換算して、合算のうえ評価を行う。

#### 事前準備学習

授業資料のほかに、板書に代わるレジュメを配布します。重要なポイントやキーワードは、レジュメに記入したりマークしてもらいながら説明しますので、配布物をきちんとつづっておいてください。それらをもとに小テストを実施し、小テストやレジュメのマーク部分をもとにして期末試験を実施しますので、間違ったところや理解が十分でできなかったところは、繰り返し復習をしておいてください。

## 40018 社会学 a (Sociology a)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 森 謙二

履修可能学科

M

関連資格

教職 福祉主

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

**到達目標**

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。  
社会科学的な考え方ができること。

**授業計画**

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造－市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開－民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）
- 9 情報化社会の展開とIT
- 10 グローバル化の背景
- 11 近代家族について
- 12 個人化する家族
- 13 〈いのち〉と家族
- 14 福祉国家の危機とリスク社会－福祉レジューム論
- 15 まとめ

**授業概略**

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きているのか、これが全体を通じてのテーマになります。近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義をしたいと思います。どのような仕組みの社会で生きているのか、どのように社会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何ができるのか、このような問題を考えながら話を進めていきたい。授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

**教科書**

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘文堂）

**参考書**

授業中に指示。

**成績評価の方法・基準**

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

**事前準備学習**

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授業が終わったら、ノートの整理を。

**40018 社会学 b**

(Sociology b)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 森 謙二

履修可能学科

M

関連資格

教職 福祉主

到達目標

自分たちが生きている時代と社会を理解すること。  
社会科学的な考え方ができること。

**授業計画**

- 1 社会学の基礎概念
- 2 欲求の体系としての市民社会（個人と社会）
- 3 市民社会の構造－市場・家族・国家
- 4 市民的公共性の成立と展開－民主主義とは何か
- 5 深まる社会の矛盾
- 6 マスコミ
- 7 福祉国家の展開
- 8 まとめ（1）
- 9 情報化社会の展開とIT
- 10 グローバル化の背景
- 11 近代家族について

12 個人化する家族

13 〈いのち〉と家族

14 福祉国家の危機とリスク社会－福祉レジューム論

15 まとめ

**授業概略**

私達は、どのような社会に、どのような時代に生きているのか、これが全体を通じてのテーマになります。近代から現代にかけての市民社会の展開を概説した上で、家族と現代社会の変化（リスク社会の展開）を中心に講義をしたいと思います。どのような仕組みの社会で生きているのか、どのように社会と関わりながら生きているのか、自分は社会に対して何ができるのか、このような問題を考えながら話を進めていきたい。授業は、原則として、パワーポイントを用いて行います。

**教科書**

家族に関しては、清水・森・岩上・山田編『家族革命』（弘文堂）

**参考書**

授業中に指示。

**成績評価の方法・基準**

試験（80%）と出席（20%）で総合的に判断する。ノート持ち込み可ですが、かなりの問題数があります。

**事前準備学習**

授業の前にユニパから資料をダウンロードしてください。授業が終わったら、ノートの整理を。

**40019 歴史学**

(History)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 岡崎 賢治

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

この授業での到達目標は次の三点である。

1. フランス史をヨーロッパあるいは世界全体との関連の中で理解できたか。
2. 国民国家という概念が再検討を迫られている理由を理解できたか。
3. 歴史学は「人間はどう生きるべきか」を考える際の重要な要素であることを認識できたか。

**授業計画**

1. オリエンテーション 一本授業のねらいと進め方
2. 「フランス」のはじまり
3. ケルト社会とフランク王国
4. 封建制社会と十字軍戦争
5. 百年戦争とジャンヌ＝ダルク
6. フランス絶対主義の光と陰
7. フランス革命
8. ナポレオン戦争
9. 社会改革の夢 ー新しい革命の波
10. フランス第二帝政とパリ民衆の世界
11. フランス第三共和制と帝国主義
12. 危機の時代
13. 変貌する現代フランス
14. 民族とナショナリズムの関係
15. まとめ（試験）

**授業概略**

本授業科目では、フランスという国家の歴史をヨーロッパあるいは世界全体との関連で学び、国民国家とナショナリズムの関係について考えてみたい。また、キリスト教、村落と都市の関係、家庭における男女の役割、文学作品にみられる人間の意識など多くのテーマを取り上げる予定である。

## 教科書

柴田三千雄『フランス史10講』（岩波新書、780円＋税）  
授業では毎時間、印刷資料を配付し、それに基づいて講義を行う。

## 参考書

福井憲彦編『フランス史』（世界各国史12 山川出版社、3,500円＋税）  
その他、授業時に適宜指示する。

## 成績評価の方法・基準

各講義中の学習課題、講義後に提出させる課題レポート（25%）、討論や発表活動など授業への参加度（25%）、及び学期末試験（50%）を中心に総合的に判断する。

## 事前準備学習

高等学校で使用した『世界史』の教科書・図説を使用して予習に励むこと。

## 備考

講義時間毎に学習課題を出し、課題レポートについて指示するので、継続的な出席が必要である。

## 40020 哲学と思想

(Philosophy and Ideology)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 掛川 富康

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

教職

到達目標

人間の知識形態には様々なものがあるが、理性に基礎をおいた批判的問いかけとしての哲学を中心に、人文科学・社会科学・文学・芸術といった広い知識の意味と性格を哲学との対比において考えていく。哲学と思想の共生していた古代ギリシャの思想の歴史を紹介し、現代の問題を考えていく。

授業計画

- 第1回 問題のありかー哲学と思想の共通性と相違
- 第2回 人間と経験と知識ー知識のさまざまな形
- 第3回 哲学という知の形ー批判的問いかけとして
- 第4回 思想という知の形ー人間・人文科学・社会科学・自然科学
- 第5回 その他の知の形ー文学・芸術・スポーツ
- 第6回 哲学の始まり（1）ーイオニア学派
- 第7回 哲学の始まり（2）ーヘシオドス『神統記』
- 第8回 哲学の始まり（3）ープラトン『ソクラテスの弁明』
- 第9回 人間をめぐる思想（1）ー文学
- 第10回 人間をめぐる思想（2）ー芸術
- 第11回 社会をめぐる思想ー社会科学
- 第12回 自然をめぐる思想ー自然科学
- 第13回 スポーツをめぐる思想
- 第14回 エコ時代の哲学と思想
- 第15回 まとめー知のさまざまな展望へ

授業概略

哲学と思想を区別しながら、人間の知の形態にはさまざまなものがあることを理解させる。それらの諸形態の知の獲得の仕方を説明していく。哲学についてはその初期の歴史を説明し、理性による批判的問いかけとしての哲学の出現の意味を理解させる。現代のかかえる諸問題にどのように対処できるか、その可能性を、問いかけとして提起する。

教科書

レジュメを配布したい。

参考書

各種の文学史および哲学史。H. I. マルー『古代教育文化史』岩波書店その他。

## 成績評価の方法・基準

出席を重視する。学期の中頃に小レポート。学期末はレポートあるいは試験を課す。

## 事前準備学習

自分が関心を持った文学や思想書から、それらを歴史の流れの中で考える視点、また現代の提起する意問題に立ち向かう意思を育て深めておく。

## 40021 人間と文学

(People and Literature)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 和泉 涼一

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

- 1) 西洋文学を形成する著名な物語作品の内容を理解します。
- 2) それらが描かれた時代背景や作者についての知識を深めます。
- 3) そこに描かれていることがらを、自分自身の問題として捉えるようにします。

授業計画

- 1) ホメーロス『イーリアス』と『オデュッセイア』
- 2) セルバンテス『ドン・キホーテ』
- 3) シェイクスピア『マクベス』と『オセロ』
- 4) スウィフト『ガリバー旅行記』
- 5) ゲーテ『ファウスト』
- 6) ユゴー『レ・ミゼラブル』
- 7) ブロンテ『嵐が丘』とディケンズ『クリスマス・キャロル』
- 8) バルザック『ゴリオ爺さん』と『谷間の百合』
- 9) ゴッテ『居酒屋』
- 10) ドストエフスキー『悪霊』
- 11) トルストイ『アンナ・カレーニナ』
- 12) プルースト『失われた時を求めて』
- 13) ジョイス『ユリシーズ』
- 14) サンテグジュペリ『星の王子さま』
- 15) オーウェル『1984年』

授業概略

毎回、作品の抜粋を觀賞します。そして、それらの作品を創造した作者とその時代背景、その作品が及ぼした影響などを解説します。  
学生は授業で紹介されたそれらの作品を、じっさいに読んでみるのがつよく推奨されます。

教科書

必要に応じてプリントを配布します。

参考書

参考文献はそのつど紹介します。

成績評価の方法・基準

必要に応じて要求される課題および筆記試験の成績により評価します。

事前準備学習

ありません。

## 40022 人間と言語

(People and Language)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 三上 司

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒外

## 関連資格

## 到達目標

言語学の知識に基づいて、人間の諸側面を知る。

## 授業計画

1. 言語の特性：通時態と共時態、系列関係と連辞関係
2. 言語学の対象：言語能力と言語運用、ラングとパロール
3. 言語類型論：語順の類型、関係詞の類型
4. 言語研究の諸分野：言語と語族、言語と民族、言語と国家、言語政策、言語接触
5. 音声学：発音器官、子音の発音、母音の発音、韻律的特徴
6. 音韻論：弁別的特徴、音素、音節、モーラ、韻脚
7. 形態論：形態素、異形態、自由形態素、拘束形態素
8. 語形成：屈折、派生、複合、省略、かばん語、頭文字語
9. 句構造：名詞句、動詞句、形容詞句、前置詞句
10. 統語構造：主語と助動詞の扱い、Xバー理論
11. 統語論：句構造規則、語彙規則、変形（移動操作）
12. 語の意味：成分分析、含意、同意語、反意語
13. 文の意味：述語動詞と項、述語の種類、項の種類
14. 言語習得：プラトンの問題、母語と第二言語、臨界期
15. 言語と脳科学：ブローカ野、ウェルニッケ野、脳の部位と文法機能、文法能力の欠如と遺伝

## 授業概略

言語を使用する能力は、人間を他の動物から区別する重要な特徴とされている。人間は言語のおかげでコミュニケーションが可能となり、高度な思考を働かせることが可能となり、文学作品を味わうことができるのである。したがって、人間を深く理解するためには、言語の本質を理解することが極めて重要になってくる。本講義では主として英語と日本語を材料にして、人間にとって言語とはどのようなものなのか、また言語の研究を通じて何が明らかとなるのかについて考えていく。

## 教科書

プリントを配布する予定です。

## 参考書

風間喜代三 ほか 『言語学』 東京大学出版会  
 スティーブン・ピンカー (棕田 訳) 『言語を生み出す本能』 (上・下) 日本放送出版協会

## 成績評価の方法・基準

授業への参加状況と筆記試験

## 事前準備学習

特に事前に必要な作業はありません。言語に興味のある方なら誰でも参加することができます。

## 40023 人間と宗教

(People and Religion)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 掛川 富康

## 履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

## 関連資格

教職

## 到達目標

人間の存在や社会の存在には、それらの根底において宗教が前提されている。人間とはどのような存在かを理解しながら、個人の問題ばかりではなく社会の問題としても、宗教の意味を考える。西洋、キリスト教・他宗教、東洋と日本、近代と現代という四つのフィールドにおいて、上記の問題を考え、現代の課題を考えていく。

## 授業計画

- 第1回 問題の意味と講義の進め方
- 第2回 人間とはどのような存在か(1)ー西洋における

## 理解

- 第3回 理想的人間とはどのようなものか
- 第4回 問題の解決の可能性ー運命と自由意思
- 第5回 人間とはどのような存在か(2)ーキリスト教における理解
- 第6回 神との関係における人間
- 第7回 問題の解決の可能性ー運命と自由意思
- 第8回 人間とはどのような存在か(3)ー東洋と日本における理解
- 第9回 東洋の道徳と宗教における人間理解
- 第10回 伝統と近代化ー二つの価値に生きる人間と社会
- 第11回 近代における人間の問題ー社会の求める人間と宗教
- 第12回 現代における人間と宗教ー宗教批判と疎外の問題
- 第13回 科学・技術の到達点と宗教ー人間中心の世界からエコの世界へ
- 第14回 真の共同体(公共性)を目指してー人間の有限性と希望
- 第15回 まとめー問題の展望へ

## 授業概略

西洋における人間理解と宗教、キリスト教における人間理解、東洋・日本における人間理解と宗教を、それぞれ紹介し、現代の問題に如何に立ち向かっていくかを考える。原理的に、また歴史的に考えていく。

## 教科書

レジュメを配布する予定。

## 参考書

W. K. C. ガスリー 『ギリシャ人の人間観』 白水社、家永三郎 『日本道徳思想史』 岩波全書、『新共同訳聖書』、和辻哲郎 『倫理学』、M. ウェーバー 『アジア宗教の基本的性格』 頤草書房、その他。

## 成績評価の方法・基準

出席を重視する。中盤にレポート。学期末はレポート或いは試験。

## 事前準備学習

講義で扱う問題にかんする古典を読んで、自分の考えを深めておく。

## 40024 美と芸術の歴史

(History of Beauty and Art)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 信太 進

## 履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

## 関連資格

## 到達目標

人類の芸術表現の歴史的な推移について理解することができる。

## 授業計画

- 1 オリエンテーション、西洋の美術
- 2 古代<エジプト、オリエント>
- 3 古代<エーゲ海、ギリシャ、ローマ>
- 4 <ビザンチン、ロマネスク、ゴシック>
- 5 <ルネサンス1>
- 6 <ルネサンス2>
- 7 キリスト教美術とは
- 8 東洋の美術
- 9 古代<中国、日本(縄文)>
- 10 インド<ガンダーラ、マトゥラー、石窟寺院>
- 11 中国<シルクロード天山南路、石窟寺院>
- 12 日本<飛鳥、奈良>
- 13 日本<平安>
- 14 仏教美術とは
- 15 まとめ

### 授業概略

人間の造形活動における芸術表現について、古代の造形遺産や近世までのキリスト教や仏教などの宗教美術を取り上げ、西洋と東洋の歴史的な推移のなかで比較考察します。テーマごとに美術作品の写真を見ながら、鑑賞をとおして理解を深めます。

### 教科書

教科書はありません。プリント・参考資料などを配布します。

### 参考書

なし

### 成績評価の方法・基準

毎時間、小レポートを提出してもらいます。レポート、出席状況・授業態度を総合して評価します。

### 事前準備学習

なし

## 40025 科学の歴史 (Science History)

配置年次 1

単位数 2 期間 前期

担当者 神山 和好

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

古代ギリシャの数学・自然学からニュートン力学に至る科学の歴史の概要を理解する。

授業計画

- [第01回] イントロダクション
- [第02回] ピタゴラス
- [第03回] ゼノン
- [第04回] デモクリトス
- [第05回] プラトンのイデア論
- [第06回] アリストテレス
- [第07回] プトレマイオス
- [第08回] ユークリッド
- [第09回] ユダヤ・キリスト教の宇宙観
- [第10回] コペルニクス
- [第11回] テイコ・ブラーエ
- [第12回] ケプラー
- [第13回] ガリレオ・ガリレイ
- [第14回] デカルト
- [第15回] ニュートン、および総まとめ

授業概略

田原真人『物理学をこれから学びたい人のための科学史/数学』の第1章「物理をまなぶための科学史入門」を主テキストに、プトレマイオスの天動説からコペルニクスの地動説への移行を経て自然科学が確立する過程を講義します。その背景となった時代状況、思想についても触れる予定です。

教科書

田原真人『物理学をこれから学びたい人のための科学史/数学』理工図書、2010年

参考書

村上陽一郎『新しい科学論』講談社ブルーバックス、1979年

成績評価の方法・基準

期末試験の評点を「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

なし

## 40026 科学の哲学 (Science Philosophy)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 神山 和好

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

関連資格

到達目標

カール・ポパーやトーマス・クーンの科学哲学の概要を知る。

授業計画

- [第01回] イントロダクション
- [第02回] 科学哲学の展開：見取り図
- [第03回] 世紀末ウィーン
- [第04回] 帰納主義（確率主義）
- [第05回] 帰納主義の問題点1：帰納法の正当化不可能性
- [第06回] 帰納主義の問題点2：観察の理論依存性
- [第07回] カール・ポパーの反証主義
- [第08回] 反証主義の限界1：デュエムークワインのテーゼ
- [第09回] 反証主義の限界2：科学史
- [第10回] トーマス・クーンのパラダイム論1：パラダイムと通常科学
- [第11回] トーマス・クーンのパラダイム論2：通常科学の危機と科学革命
- [第12回] ボール・ファイヤーアーベント：anything goes
- [第13回] 科学と社会1：神の書きたいま一つの書物の解読から好奇心駆動型研究へ
- [第14回] 科学と社会2：マーソンのCUDOSとザイマンのPLACE
- [第15回] 科学理論とは何か：実在論と道具主義、および総まとめ

授業概略

19世紀末から20世紀はじめにかけて科学上の革新がありました（相対論、量子論、数理論理学等）。科学哲学（philosophy of science）はその刺激を受けて成立した哲学の一分野です。近年の科学哲学では科学研究に対する社会からの影響が重視されています。それを含めて科学哲学の概要を解説します。

教科書

なし（必要な資料は配布します）。

参考書

村上陽一郎『新しい科学論』講談社ブルーバックス、1979年  
トーマス・クーン『科学革命の構造』みすず書房、1971年  
A.F. チャルマーズ『科学論の展開－科学と呼ばれているのは何なのか？』恒星社厚生閣、1985年

成績評価の方法・基準

期末試験の評点を「履修要覧」に掲載されている成績評価の基準に当てはめて評価します。

事前準備学習

参考書としてあげた村上陽一郎『新しい科学論』は読みやすいと思います。手もとに置いて、必要に応じて参照してください。

## 40027 自然科学の基礎 (Natural Sciences)

配置年次 1

単位数 2 期間 後期

担当者 中原 東郎

履修可能学科

E Pe Pc C W F N M

共通

E

Pe

Pc

C

生活基礎

W

F

看護基礎

N

経営基礎

M

卒業

### 関連資格 到達目標

1. 自然科学の発展史を大まかに捉えること
2. 科学的な見方・考え方に一定程度慣れ、理解できること
3. 科学とその適応である技術の光の部分と影の部分を理解すること
4. それらを基に、科学と技術のあり方について自ら考えることができること
5. 情報や実験データの定量的な取り扱いに慣れること
6. 論理的な文章が書けるようにすること

### 授業計画

- 第1回：自然科学はどのように発展してきたのか  
 第2回：科学的な見方・考え方  
 第3回：江戸時代の「科学」について  
 第4回：科学とその適応である技術の光の部分と影の部分  
 第5回：生物の自然発生説との闘い  
 第6回：統計データ、データの整理  
 第7回：単利法・複利法、ローンの数学  
 第8回：RSA暗号と素数、 $\pi$ について  
 第9回：光の二重性について  
 第10回：水のふしぎ  
 第11回：ワクチン  
 第12回：脂質栄養について  
 第13回：遺伝子組換え作物について  
 第14回：論理的な文章とは  
 第15回：まとめ

### 授業概略

科学の発展に伴う知識や技術の量と質は20世紀以後、飛躍的に増加し深まっており、私たちの社会・生活に深く根を下ろしてきました。科学とその適用である技術が、光の部分として、私たちの社会・生活を快適なものとしている一方、核兵器、地球温暖化など影の部分も生み出しています。今世紀、科学・技術の影響がさらに大きくなる中で、科学的な見方・考え方を学ぶことが強く要求されています。本授業ではそのような考え方を学ぶとともに、自然科学的な方法論にも親しめるようにし、実験データとの付き合い方、簡潔で論理的な表現を目指した（科学的）文章作成の基礎についても学びます。

### 教科書

指定しない

### 参考書

特に指定しない

### 成績評価の方法・基準

75%以上の出席率と、試験あるいはレポート

### 事前準備学習

授業ではきっちりノートを取るようにしてください。

- 【第06回】復習および課題3  
 【第07回】一様分布と正規分布  
 【第08回】復習および課題4  
 【第09回】標本平均の分布と母平均の推定  
 【第10回】t分布と母平均の推定  
 【第11回】復習および課題5  
 【第12回】 $\chi^2$ 分布と母標準偏差の推定  
 【第13回】仮説検定  
 【第14回】復習および課題6  
 【第15回】まとめ

### 授業概略

統計学とは、アンケートや観測によって採取された、大量のデータの中に存在する法則性を扱う科学的分析方法であり、自然科学、社会科学、人文科学等の分野で広く利用されている。もちろん、経営の分野においても必要不可欠なものである。経営学では、データの分析に多変量解析（複数のデータを統計的に分析し、その関係性を明らかにする方法）がよく用いられるが、多変量解析を理解するためには、統計学の基礎を十分に理解していなければならない。ここでは、統計学の基礎について、演習を取り入れながら解説する。

### 教科書

鳥居泰彦 『はじめての統計学』 日本経済新聞社、1994年

### 参考書

なし

### 成績評価の方法・基準

最終試験（6割）および課題（4割）による総合点から欠席1回につき5点を減じた点数（100点満点）か、もしくは、最終試験の素点を100点満点としたもののどちらか高い点数を成績とする。

### 事前準備学習

数学が不得意のものは、四則演算、分数、 $\chi^0=1$ など、受講までに各自で簡単な復習を行っておくこと。

### 備考

平方根（ルート）計算ができる電卓を持参すること。

## 40028 統計学の基礎 (Statistics)

配置年次 1  
 単位数 2 期間 後期  
 担当者 有澤 正樹  
 履修可能学科

M

### 関連資格

### 到達目標

統計学の分析概念を理解し、基本的な統計処理を行うことができる。

### 授業計画

- 【第01回】統計学はどのような学問か  
 【第02回】復習および課題1  
 【第03回】標本分布の特性値  
 【第04回】復習および課題2  
 【第05回】確率と確率分布